

杉山三郎 書家、漢詩人。安政二年七月二十四日美濃國安八郡
 神戶村生れ、昭和二十年三月十一日没（八五—一九五）。本名令吉、令
 と修す。字直心。別號春海學人、遂堂、郊晴、郊翁、郊叟、養老山人、
 養老山樵、鸞谷莊主等。少時より父杉山千和（本名又吉）に漢學、書
 畫を學び、更に鈴木重遠に就き漢學を研修。明治六年神戸村玉成義校教
 師。十年上京して川田夔江に入門、十二年師に就き其娘古登（琴子、
 湘碧と號し畫を能くす）と結婚。十九年から五年間アメリカ留學。二
 十五年東京高等商業學校（のち東京商科大学）教授となり、爾來昭和
 十二年に退職するまで、書道、漢文、書翰文、商業文講座を擔當。こ
 の間、早稻田大學商學部でも、書道、書翰文を講じた。また退職後と
 その學徳を慕はれ、兩大學出身の有志が組織した蘭社でも、書道、漢詩
 文を指導した。

『杉山三郎遺墨集』（昭和五十九年二月二十日岐阜・神戸町教育委員
 会編輯）がそのものである。

